

第1回水田輪作新技術フォーラム in 仙台 開催要領

1. 趣 旨

国内の農業従事者数はここ 20 年間で半減しており、離農に伴う農地は担い手と呼ばれる経営体へ集積することで大規模化が進むと考えられます。一方、規模拡大に伴う生産性向上には限度があり、新技術導入によって生産性をさらに高めていく必要があります。

農研機構は、開発した土地利用型農業をベースとする新たな農業技術をパッケージ化し、地域の皆様と一緒に地域農業の生産性と収益性を向上させていくことを目指す「水田輪作新技術プロジェクト」を令和 8 年度から開始しています。

本フォーラムでは、農研機構選りすぐりの技術の紹介やパネルディスカッションを通じて、これからの農業において生産性と収益性を向上させていくにはどうしたらよいかを一緒に考えます。

2. 開催日時：令和 8 年 12 月 8 日（火）13:00～17:00

3. 開催場所：フォレスト仙台 フォレストホール（宮城県仙台市青葉区柏木 1-2-45）

4. 開催方法：会場 200 名（先着順）及びオンライン配信

5. 主催：農研機構

6. 後援：農林水産省東北農政局、全国農業協同組合連合会、
一般社団法人東北経済連合会、株式会社クボタ、スガノ農機株式会社、
日産化学株式会社、ヤンマーアグリジャパン株式会社

7. 内容

（1）基調講演

■ プラウ耕鎮圧体系乾田直播を核とした水田輪作の現状と今後の普及展開

13:00～13:30

農研機構 東北農業研究センター スマート水田輪作研究領域 スマート水田輪作グループ
主任研究員 篠遠 善哉

（2）講演

■ プラットフォーム活動による東北地域での乾田直播栽培の普及拡大

13:30～13:50

農研機構 東北農業研究センター 所長 若生 忠幸

■ ZR シリーズを軸とした全農の「業務需要向け契約栽培」の取り組み

13:50～14:10

JA 全農 米穀部 事業企画課 専任課長 遊田 善幸 氏

■ 稲いもち病発生予測・斑点米カメムシ発生予測技術の利用

14:10～14:30

株式会社ビジョンテック 取締役 COO 藤澤 博司 氏

■ 宮城で実証！大豆湿害対策播種技術は東北で活かせるか

14:30～14:50

農研機構 事業開発部 地域連携課 主査 津野 洋之

－ 休憩 － 14:50～15:00

■ 製パン性に優れた小麦新品種 夏黄金－品種特性、栽培とその利用－

15:00～15:20

農研機構 東北農業研究センター 園芸畑作研究領域 麦育種グループ長 池永 幸子

JA 新みやぎ 松山営農センター長 一戸 勝史 氏

公益財団法人宮城県学校給食会 物資課長 富田 充雄 氏

■ 東北地域におけるタマネギ産地化に向けた技術－移植・直播・セット栽培－

15:20～15:40

農研機構 東北農業研究センター 園芸畑作研究領域 領域長 塚崎 光

■ 基調講演、講演への質疑応答

15:40～15:55

(3) パネルディスカッション「省力化の先にある"儲かる農業"を考える」 16:00～17:00

モデレーター：農研機構 事業開発部 地域連携プロジェクト推進課 課長 古畑 昌巳

パネラー：農事組合法人プロファーマ 事務局 小野寺 清悦 氏

農事組合法人たてファーム・和 総務部長 高橋 弘 氏

株式会社いがらし農産 代表取締役 五十嵐 雅敏 氏

株式会社飯崎生産組合 代表取締役 水谷 隆 氏

8. 事務局

農研機構 事業開発部 地域連携プロジェクト推進課 古畑、竹内

9. 問合せ窓口

農研機構 事業開発部 地域連携プロジェクト推進課 竹内

Tel：029-838-6959

Mail：naroforum_rinsaku@ml.affrc.go.jp